

強い日差しが初夏を思わせ、成績の上位者ほど、重い季節になつた。しかし、夏着ができる。暑いときは一枚でも冬でも年中、学校指定の脱いで、冷えたら一枚羽ジャージ姿の中学生が少ない。

塾では、夏になれば「暑く」る。

先日、久しぶりに夏日になった。その夜、中学生の授業で、ジャージーを脱いでTシャツになつた男子がいた。私は間髪入れず「重ね着ができる、偉いなあ」と褒めた。よく見ると、胸に「I am whale (私はクジラです)」とプリントしてあった。私は「君はクジラか?」と聞いてみた。彼は自分のTシャツを引っ張って、文字を確かめながら「おお、クジラだ!」と大きな声で驚いた。教室中、笑いに包まれた。

「冬になれば『寒くないか?』と声掛けをして、服装は誰が選ぶのかと尋ねたちは「だって、面倒だから」と一様に答える。私は常々、「志学塾の先輩

私見創見

Thursday

親の慈しみに包まれて!

るだけです」と答えた。

親が子どもだった時代は、中学生にもなれば、友達の目が気になり、ばかりにされたくないという意識がいつも働いていたと思う。しかし、最近の子どもたちは、遊びの中で、自分と他人を比べる意欲

が減ってしまったように感じます。その結果、想像力が貧困になってしまっている気がしてならない。

青年期は、友達との関わりの中で、悪口、陰口、毒舌、ホラなどを交えながら、「自分とは何か」を模索する時期

の中でも、悪口、陰口、毒舌、ホラなどを交えながら、「自分とは何か」という友情が芽生える経験を積む

た。本人も「第1志望はA高です」とほっきり言った。

しかし、何日たっても本気で取り組まない。本人と腹を割って話したら、本音は「B高で野球をやりたい」と。

確かに、親子の添い寝や家族風呂は、子どもが親の慈しみを感じる大切な機会だ。しかし、中学3年男子の母親どもが懸命に子どもの代弁を続けると、母親は「塾長は何も知らないんです。あの子は今で

自尊感情

畠山

篤

志学塾塾長



はたやま・あつし
1960年、八戸市生まれ。明治学院大卒。志學塾を運営しながら、全国各地で講演。「勉強部活」を提唱、放課後学習支援などに活動する。全国学習塾協会理事。

翌日、母親に彼の胸の内を伝えた。すると、そんなはずはない」と強く否定した。私が懸命に子どもの代弁を続けると、母親は「塾長は何も知らないんです。あの子は今で

確かに、親子の添い寝や家族風呂は、子どもが親の慈しみを感じる大切な機会だ。しかしながら、中学3年男子の母親どもが懸命に子どもの代弁を続けると、親の慈しみを感じる。親は子育てを楽しみながら、子どもが夢に向かって羽ばたける自尊感情を育みたい。「これこそが本当の自分だ」という誇りは、親の慈しみに包まれて確かなものになるはずだ。

も私の布団に入ってきて眠るのですから」と。一瞬、私は自分の耳を疑つたが、「そうですか…。であれば」と思えば、男子は母親と一緒に女湯に入ることははばかられた。

われわれの世代が子どもだつた頃、風呂は錢湯が当たり

た身の成長とともに、子ども達も部屋があり、子どもの送迎が当たり前の、安全、安心便利で豊かな生活様式が、子離れをしていった。

前で、小学3、4年ともなれ

64人、青森県に移住

あおぐら 前年度を上回る
17年度実績

人口減少対策の一環として、青森県外からの県内移住を促す「あおもり移住・交流推進協議会」(会長・橋本恭男県企画政策部次長)は30日、東京・有楽町に開設した「青森暮らしサポートセンター」(略称あおぐら)の2017年度実績をまとめた。相談件数は延べ879件で、うち実際に移住を決めたのは37件64人。いずれも前年度実績(相談681件、移住25件46人)を大きく上回った。(木村誠宏)

青森暮らしサポートセンター実績

	相談件数	移住決定数
2014年度	79件	10件 14人
15年度	254件	14件 26人
16年度	681件	25件 46人
17年度	879件	37件 64人

*同センターは14年6月に開設。
16年7月から就職相談員を配置。

あおぐらは、県や市町村などで構成する同協議会が、住相談が592件、就職相

青森暮らしサポートセンター実績

件1人。

移住決定者のうちJITAI

ンは20件32人で、1ターン

は17件32人。移住理由を尋

ねたところ、△青森県で仕

事がしたい△地元で暮ら

たい△家族の都合や介護△

青森の人が魅力的などの

回答が多かった。

17年度実績は同日、青森

市で開かれた協議会で報告

された。県地域活力振興課

の田中道郎課長は取材に、

「相談窓口(あおぐら)の

認知度の高まりもあるし、

若い人を中心に『移住熱』

が伸びてきていると感じ

る」と。男性は障害のため自ら

痛みを伝えることができ

る。同11時半ごろトイレの

心臓カテーテル手術に

成功した鈴木陽葵ちゃん

を抱き、笑顔を見せ

る母親=30日、静岡市

やんで、予定より早い33週

で2月7日に同県東部の病

院で生まれた。体重は約9

00gだった。しかし、内

見に姿を見せた。同席した

父佳祐さん(33)は「毎日、

不安な思いで過ごしてき

う」と。陽葵ちゃんは母親に抱かれて病院が開いた記者会見に姿を見せた。

医師や看護師の方たち

には感謝の言葉しかない。

良が元気な皮膚